

## LAN アクキュライザーの活用(2) ーアナログと配信音源再生(2)ー

### 1. 始めに

前報(1)に引き続き、LAN アクキュライザーの導入により配信音源のレベルが上がってきたことで、アナログと配信音源再生との直接比較を実施していきます。

### 2. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴計画

今回試聴するのは、バッハのチェンバロと弦楽のための協奏曲です。

アナログ盤

ARCHIV 28MA 0020

J.S.バッハ チェンバロと弦楽のための協奏曲 BWV 1052・1053・1054

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

STAGE+

J.S.バッハ：チェンバロ協奏曲集他

イングリッシュコンサート，トレヴァー・ピノック

ヨハン・セバスティアン・バッハ チェンバロ協奏曲 第1番 ニ短調 BWV 1052

ヨハン・セバスティアン・バッハ チェンバロ協奏曲 第2番 ホ長調 BWV 1053

ヨハン・セバスティアン・バッハ チェンバロ協奏曲 第3番 ニ長調 BWV 1054

以下は、対応するアナログ盤がありませんので省略します。

### 3. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴結果

上記の比較は、すでに[スピーカーアクキュライザーの導入\(30\)](#)で報告していますが、この時点からの変更は前報(1)で述べたとおりです。

アナログ盤の再生においては、フォノイコライザーのイコライザーカーブはTELDECを選択し、位相反転させています。STAGE+では、Brooklyn DAC+においてアナログ盤と同様、位相反転させています。

アナログ盤の再生では、前報(1)で述べたスピーカーアクキュライザー周りの効果で、チェンバロの繊細さと中低域から低域の量感が強化され、どっしりと落ち着いた印象になっています。

STAGE+再生では、総体に見通しがよくなり、チェンバロのニュアンスが落ち着いてきており、通奏低音が明瞭になってきています。結果として、デジタル的なエッジのたった音が後退し、アナログ的な雰囲気近づいています。あえてこちらのメリットを述べると、低域のクリアーさはアナログにはないところがあります。

ともあれ、LAN アクライザーの効果で配信がアナログと同じ土俵の上に乗せて評価できるようになったということです。

#### 4. まとめ

アナログと STAGE+双方に関係する変更の効果により、ともにグレードがあがり、STAGE+の配信音源の再生では、2ヶ所への LAN アクライザーの装着の効果でアナログに近づいた印象です。

以上